

本日 第12回目の委員会会議が行われました
会場 千葉市中央コミュニティーセンター5f52号室
時間 午後6時より9時まで

参加者:

金親博榮、小西由希子、栗原裕治、中村俊彦、荒尾 稔
上善峰男 / 林みね子 / 田中正彦 / 桑波田和子 / 相馬 由起子 / 所英亮 / 井村弘子 / 加藤 賢三

議題:

1 桜宮自然公園をつくる会から、産業廃棄物処理施設の件
現在までに至った経過と、現状を報告頂きました。

報告1 桜宮自然公園をつくる会 所英亮 様
現状報告、及び多古町の現在の姿勢
桜宮自然公園をつくる会としての現状認識

報告2 残土・産廃問題ネットワーク・ちば 井村弘子様
現在までの経過とこれから。

報告3 概要として

現状で分かっている産廃会社の内容や桜宮自然公園の隣接地の状況など
その上で、里山シンポジウム実行委員会として、何をなすべきなのか議論をお願いした

議論の結果

里山シンポジウム実行委員会として、全体で桜宮自然公園をつくる会を介して、この件での積極的な関与を

することで合意された。

(1) 堂本県知事宛のメールによるお願い文を、各自が配信する
小西さまから、文案等、satochiba上への開示など
(2) 意見書は、(10/17 締め切りまでに産業廃棄物課へ提出する)里山シンポジウム実行委員会として提出する。

原案は荒尾が作成し、satochiba上で議論した上で、県産業廃棄物課宛等に提出する。
なるべく多数のメンバーの名前を連ねて行う予定。

(3) 多古町で勉強会、あるいはシンポジウムの開催を緊急に行う事。
地域(多古町)への産廃問題への喚起と、県行政等への強力な働きかけのために

時期としては、10月末。

主催は、桜宮自然公園をつくる会 後援に里山シンポジウム実行委員会、多古町、ほか
パネラーとしては、

参加講演者としては

- ・ 千葉県立中央博物館 中村副館長
- ・ 残土・産廃等の専門家 藤原寿和さん(残土・産廃問題ネットワーク・ちば代表)
- ・ 多古町から町長、あるいは地域振興課等行政担当者
- ・ 県の産業廃棄物担当課等(堂本知事や大槻副知事にも依頼してみる)

多古町コミュニティープラザでの写真展との組み合わせも

時間帯は、夕方ではどうか、県側の参加者の意向も

(4) そのシンポジウムの開催の準備のためもあって10月14日に、里山シンポジウム実行委員会委員
(4名の予定)が多古町役場、多古町旬の味産直センター等を訪問して話し合いを行う予定
(5) 多古町では、かつて残土・産廃の洗礼を受けたことがない(不法投棄はある)とのことで、
今回のキャッチ文として

- ・ 多古米が危ない。千葉県否、全国ブランド多古米コシヒカリの販売への影響も
- ・ 拡散型の煙突設置で、広大な範囲の田んぼや畑にもじわじわと汚染されてしまい兼ねない
- ・ 1度、産廃を受け入れてしまうと次ぎ次ぎと入り込まれて、埼玉県くぬぎ山の二の舞になりかねない

- ・ 成田空港に近い里山を観光資源として考える多古町にとってイメージダウン

(6) その他

日本の里地・里山 30 選（読売新聞社主催・環境省共催）に選ばれた「桜宮自然公園」、環境省からの反応も確認する。読売新聞社に大々的に記事にしてもらうことも。

産業廃棄物処理施設の設置許可申請をしている（株）トーホークリーンが、どこまで本気で設置を考えているか、確認できない。土地を有利に売却しようとしている可能性も否定できない。

2 次年度の分科会、全体会に関する件

開催場所市町村を、千葉県内で公募する件。各分科会からの考え方や要望方への話し合い
全体会の候補地一案として、市原市の名前が出ました。分科会是我孫子市で複数等、

各メンバーの意向で これから候補を選びましょうというはなし 次回に懸案として継続

3 第 2 回里山シンポジウム報告書作成の件

第 2 回里山シンポジウムの正式な報告書を作成する件、現状報告をさせていただきました。

中村俊彦様から現状報告がなされ、各分科会からの報告は、全体会での 2 分間発表の

責任者からの発表内容及び、会場でパワーポイントで表示した 2 P を使うということで合意された。

改めて satochiba を介して、最終原稿固めを進める意向で 次回に懸案として

4 その他、

(1) 印旛沼水循環健全化会議、略称「わいわい会議」に関する現状報告が、金親博榮会長よりありました

(2) NPO 活動推進室からのお願いに関して、金親博榮会長から簡単な報告

以下、今回は時間切れとなって散会となった

里山シンポジウム実行委員会事務局長

荒尾 稔 tmlarao@tml.co.jp